



歌川広重「東海道五十三次之内 藤沢」(保永堂版)

## もくじ

藤澤浮世絵館開館	P 1
開館記念イベント／開館記念講演	P 2
開館記念展報告	P 3
イベント報告	P 5
ONIKAGE学芸員のページ／ここがオススメ	P 6
展示予告・関連施設	P 7
浮世絵こぼれ話	P 8

## 藤澤浮世絵館 開館

2016年7月16日(土)、藤沢市藤澤浮世絵館が開館しました。開館記念式典では、鈴木恒夫市長、吉田早苗教育長、佐藤春雄市議会議長、川崎・砂子の里資料館館長であり藤澤浮世絵館顧問の齋藤文夫氏にごあいさつをい



テープカットの様子  
(写真左から) 吉田早苗教育長、鈴木恒夫市長、佐藤春雄市議会議長、齋藤文夫顧問、鈴木良明藤澤浮世絵館運営委員長

ただき、神奈川県立歴史博物館主任学芸員の桑山童奈氏による講演のあと、テープカットが行われました。

藤沢市の所蔵する浮世絵作品は、1980年(昭和55)に市制40周年を記念して日本大学元総長の呉文炳くれふみあき氏から譲り受けたコレクションが中心となっています。以来、藤沢市では藤沢宿や江の島を題材とした浮世絵や関連資料の収集を続けてきました。藤澤浮世絵館では、これらの所蔵作品を順次展示してまいります。

藤沢は、時宗総本山である清浄光寺(遊行寺)の門前の町であり、また、江戸時代に制定された東海道の宿場町として発展しました。江戸時代の中期に入ると、庶民による寺社参詣の旅が流行しましたが、江の島は風光明媚な景色と江戸からの立地の良さも相まって、江戸から多くの方が訪れました。藤沢には、江の島へむかう江の島道の入口と、大山へむかう大山道の入口(四ツ谷)があり、参詣の要所となっていました。また、小栗判官照手姫物語や歌舞伎の登場人物・弁天小僧ゆかりの地でもあります。こうした背景から、江戸時代から明治初期にかけて、著名な絵師たちによる優れた作品が多数描かれております。



藤澤浮世絵館エントランスロビーの様子



## 開館記念イベント 中村獅童氏トークショー

2016年7月23日(土)、藤澤浮世絵館の開館記念イベントとして、歌舞伎役者であり俳優としてもご活躍の中村獅童氏をお迎えしてトークショーを開催しました。藤沢市の所蔵作品の中から、中村獅童氏が演じたことがある役が描かれた浮世絵を中心に、川崎・砂子の里資料館館長であり藤澤浮世絵館顧問の齋藤文夫氏にご解説をいただきました。

イベント前には、中村獅童氏が展示コーナーを訪れ、展示作品をご覧になりながら「浮世絵に描かれている役者の立ち姿や表情を今でも参考にしています」と仰っていました。



歌舞伎の演目や浮世絵作品について和やかに対談する中村獅童氏と齋藤顧問

## 開館記念講演 「江戸時代の江の島と弁財天信仰」

2016年10月9日(日)、講師に鎌倉国宝館館長であり藤澤浮世絵館運営委員長を務める鈴木良明氏をお迎えし、「江戸時代の江の島と弁財天信仰」という演目で開館記念講演を開催しました。



鈴木良明氏の講演に聞き入る参加者

講演では、まず「江島詣」の賑わいが始まった理由について、江戸時代の記録である「岩本院文書」や「岩沢家文書」を読みながらご解説いただきました。そして、島民御師(裏茶屋)の発生と増加から江の島の賑わいぶりを推察しました。江の島が江戸の人々の信仰の対象であり、遊興の適地でもあったことから弁財天の御開帳が定着し、江戸時代の地誌である『武江年表』には「江戸より参詣夥し」と書かれました。大山が女人禁制であったのに対し江の島は女性も参詣できたこと、江戸から近い立地であること、風光明媚なこと、食物美味なこと、江戸の人々が「講中」を組み大勢で参詣に訪れたことを読んでいきました。次に、『鎌倉日記』や『遊歴雑記』などの紀行文から、三味線を借りて音曲に耽ったこと、地引網を楽しんだこと、土地の子どもと戯れたこと等を読み、往時の旅を追懐しました。

最後に、藤沢市所蔵の浮世絵を紹介しながら、浮世絵に描かれた虚構と真実についてお話しをいただきました。例えば、江の島を題材にした浮世絵には海女の姿がよく描かれていますが、実は江の島に海女がいたという記録はありません。美人画に仕立てることで多くの人を江の島詣へと誘いました。また、牛に乗る女性の姿も多く残されていますが、これについては実際に「岩沢家文書」に近隣で牛が飼われていたことが記されています。



歌川広重「相州江の嶋弁才天開帳本宮岩屋の図」

## 開館記念展報告

# 「絵師たちに愛された藤沢 北斎・歌麿・広重・国貞」

第1期 2016年7月16日(土)～9月4日(日)  
第2期 2016年9月7日(水)～10月16日(日)  
第3期 2016年10月19日(水)～12月4日(日)

開館記念展では、3期にわたり、「東海道五十三次コーナー」「藤沢宿コーナー」「江の島コーナー」「企画展示コーナー」の4つのコーナーで、テーマに沿った展示を行いました。

### 東海道五十三次コーナー



「東海道五十三次コーナー」では、歌川国貞(三代豊国)の「役者見立東海道五十三次」シリーズから1期22点ずつ計66点を展示しました。なお本作品は嘉永5年(1852)より刊行され、全て集めると140点にのぼる大作の揃物です。

「役者見立東海道五十三次」の「見立」とは、作品の背景に描かれた宿場や間の宿に関連する役を「見立てる」という意味と、その役にぴったりな歌舞伎役者を「見立てる」という二つの意味があると考えられます。



歌川国貞「東海道五十三次の内 平塚 萬長娘おこま」



歌川国貞「東海道五十三次の内 藤沢 小栗判官」

上掲の2点は嘉永4年に上演された『世界花小栗外伝』の登場人物、小栗判官(藤沢)と萬長娘おこま(平塚)が描かれています。主人公の小栗判官は藤沢ゆかりの人物で、おこまは小栗判官を恋慕する宿屋の娘で、平塚の背景に描かれた高麗山と関連付けて描かれていると考えられます。

また彫り・摺りともに高い技術が用いられており、円熟した技量を感じる国貞の代表作の一つとなっています。





### 藤沢宿コーナー

「藤沢宿コーナー」では、藤沢に加え、県内の神奈川・保土ヶ谷・戸塚・平塚・大磯・小田原宿の浮世絵も展示しました。それぞれの宿場の味わいや旅の気分を、広重や北斎の絵から感じていただきました。



葛飾北斎「藤沢 平塚へ三里半」



### 江の島コーナー

「江の島コーナー」では、古来より宗教的な修行の場として信仰を集め、また行楽地としても人気を集めた江の島の風景を、版本はんぽん（版木に彫って印刷した本）やおおばんおおばん 3～5枚

つづき  
続からなるダイナミックな浮世絵でご覧いただきました。

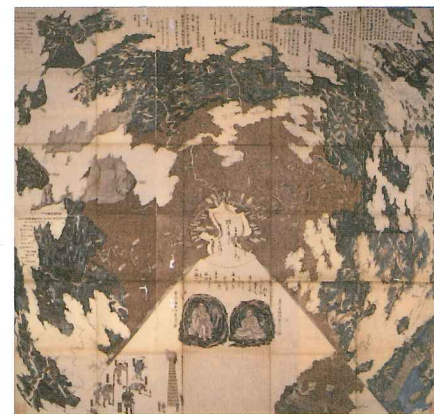


歌川国芳「七里ヶ浜より江のしまの遠景」

### 企画展示コーナー

「企画展示コーナー」は、3期とも「富士山と江の島」をテーマにしました。江の島と富士山がセットで描かれている作品が多くあります。

浮世絵作品を通して、現実ではあり得ないような構図で描かれた富士の姿をご覧いただいたあと、晴れた日には交流スペースで当館名物「ホンモノの富士山」をご覧いただくこともできます。



歌川貞秀「富士山真景全図」

### おまけ



藤沢浮世絵館から見える富士山

## イベント報告

### 出張！浮世絵すり体験

7月24日(日)・26日(火)・27日(水)

テラスモール湘南にて浮世絵すり体験を開催しました。3日間でのべ350人にご参加いただき、浮世絵館特製「広重風テラスモール外観」と鈴木春信「清水の舞台から飛び降りる女（模刻）」の浮世絵すり体験をしていただきました。



すり体験の様子

### ワークショップ

#### 「浮世絵でつくろう！手作りうちわ」

8月11日(木)・14日(日)

2日間で計40人にご参加いただきました。浮世絵館オリジナルの版木から、好きな絵を選んですり、竹製のうちわの骨に貼るとできあがりです。



うちわ作りの様子

今後のイベント情報は、「広報ふじさわ」や藤沢浮世絵館のホームページまたはfacebookページにて、随時お知らせします！



### 学芸員によるミニ講座

#### 浮世絵を読み解く

#### 『役者見立 東海道五十三駅』

8月13日(土)・21日(日)

藤澤浮世絵館の学芸員による講座を開催しました。開館記念展にて展示されている「役者見立 東海道五十三駅」を手がけた絵師・歌川国貞（三代豊国）についてや、役者絵に描かれた役者の見分け方など、浮世絵を楽しんでいただくポイントを解説しました。



（配布資料より）描かれている顔の特徴を捉えます

### ワークショップ

#### 「浮世絵の多色ずり体験」

10月8日(土)・10日(月)

2日間で計40人が、浮世絵と同じ技法を使った多色ずりの版画を体験しました。



左の主版に色版を何回か重ねてすると表情が出てきます。

### 学芸員によるミニ講座

#### 「江戸かな」を読もう

10月2日(日)・16日(日) (2回連続講座)



江戸時代の地誌「江の島詣で 浜のさざ波」を原文のかなで読む講座を開催しました。

平亭銀鷄  
「江の島詣で 浜のさざ波」





## ONIKAGE学芸員のページ 浮世絵を伝えること ①

はじめに、「文化財って何？」ってえお話をいたします。ちょっと硬いですが、なあと、歯が立たない程じゃあございません。ほんのちょっとだけ物知りになること請け合い！よろしくお付き合いのほどを。

「文化財」ってえのは、人類の文化的活動によって生み出された有形・無形の文化的所産のことです。国宝や重要文化財があって、建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料及び歴史資料が指定されています。藤沢市には、国登録有形文化財が10箇所27件、指定文化財については、国指定8件、県指定14件、市指定75件、計97件があります（平成28年12月1日現在）。どうです、意外とたくさんあるでしょう！エヘン！！

ところが、実は、浮世絵版画で国宝に指定されているものは一点もないんです。版画は同じ作品が多数存在するから、と言うのが主たる理由のようです。葛飾北斎の「富嶽三十六景」や、歌川広重の「東海道五十三次」など、みなさんにお馴染みの画は数多有るのになあ。

それでも、浮世絵は、美しさも然ることながら、日本の文化的伝統や成熟した江戸庶民文化を伝える貴重なものになりません。一枚の浮世絵の中には、当時の人々の夢も暮らしも情報も満載なんですから！

ところで、「展示する」とどんなに厳重な注意を払っても、空気に触れ、光に当たってしまいます。浮世絵の絵の具は草木から採れた染料を材料にしているものが多く、何しろ光に弱いのでございます。「展示すること」と「保存して次世代に伝えること」は、なかなか両立しませんが、劣化を最小限に留めつつみな

さんにご覧いただくのが、私たち学芸員の仕事。「国宝級」の気持ちで、常に温度、湿度、光度を管理し、虫・カビに汚染されないように監視しております。浮世絵の展示に最適な温度は20度以下、湿度は55%位、光度は55lx(ルクス)位。浮世絵は暗くて寒いのがお好き？ ご来館の皆さまも、何卒ご理解のほど、よろしくお願ひ、いたします～。ペこり。

わたくし学芸員の  
ONIKAGE  
にございます。



ここが  
**オススメ!**

### 浮世絵すり体験

開館記念展の期間中は、毎日午後1時から5時の間、浮世絵の版木をする体験を開催してきました。版木は職員が心を込めて彫りました。

12月からは土日みの開催です。今後も展示替えごとに版木が変わる予定ですので、ぜひ、すり師になってみてください。



## 展示予告

2016年12月～2017年4月

### ◆「おもしろ東海道と浮世絵双六勢ぞろい」 2016年12月9日(金)～2017年1月22日(日)

歌川芳員「東海道五十三次」を展示します。それぞれの宿場に伝わる伝承などがユーモアたっぷりに描かれています。江戸時代の「笑い」を楽しんでください。

また、お正月にあわせ、江戸時代から昭和初期にかけて作られた「双六」作品も多数展示します。



歌川芳員  
「東海道五十三次内藤沢」



歌川広重「東海道遊歴双六」

### ◆「浮世絵でめぐる旅と物語」 2017年1月27日(金)～3月5日(日)

歌川広重や歌川貞秀などの旅情あふれる浮世絵や、魚屋北溪の豪華摺物で、東海道を旅してみましよう。



魚屋北溪  
「江島紀行兒ヶ淵」



歌川貞秀  
「東海道名所之内  
ふちさは 遊行寺」

### ◆「文明開化：変わりゆく浮世絵の景色たち」 2017年3月10日(金)～4月16日(日)

明治期に描かれた浮世絵を中心に展示します。変わりゆくまちの風景をみていきましょう。



三代歌川広重「立斎漫画」

### ▶ 関連施設の紹介



#### 藤沢市アートスペース (愛称FAS)

新進気鋭アーティストの活動支援や様々な企画展を行う美術振興施設です。

〒251-0041 藤沢市辻堂神台2丁目2番2号ココテラス湘南6階

TEL: 0466-30-1816

URL: <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/bunka/FAS/>

#### 藤沢市ふじさわ宿交流館

旧東海道藤沢宿の歴史や文化に触れ、人々が交流の場として活用できる施設です。

〒251-0001 藤沢市西富1丁目3番3号

TEL: 0466-55-2255

URL: <http://www.fujisawa-kanko.jp/fujisawashukukouryukan>



# 浮世絵のぼれ話 01



図1

うたがわひろしげ とうかいどう こじゅうさんつぎ  
 初代歌川広重が描いた「東海道五拾三次  
 のうち ふじさわ ほつえいどうばん  
 之内 藤沢 (保栄堂版)」(図1)は、藤沢を  
 描いた浮世絵として最も有名なものの一つで  
 す。手前の鳥居の奥に木が茂った山がある構  
 図は、一見「江の島」を描いているように見  
 えますが、実は画中に記されているように藤  
 沢宿の「遊行寺」を描いたものです。



図2

図2の浮世絵は、同じく初代広重が描いた  
 そうしゅうえのしまのす  
 「相州江之嶋之図」です。ここに描かれた江

の島の姿は保永堂版の遊行寺の山にそっくり  
 です。広重は他の作品においても、この向か  
 って左側の崖が崩れたような江の島を描いて  
 います。



図3

撮影：澤野義親氏

図3は現在の遊行寺橋周辺の写真です。左  
 の奥に見える赤い橋が遊行寺橋で、手前の橋  
 は藤沢橋です。右上に見える銅葺きの(水色  
 っぽい)大屋根が遊行寺の本堂です。この写  
 真からみて、江戸時代とは若干の地形に変化  
 はあるにせよ、遊行寺の左手に崖崩れが生ず  
 るような山があるとは考えにくいと思われま  
 す。従来、図1は遊行寺を強調するために山  
 の高さを出して描かれたという説明がされて  
 きましたが、広重は遊行寺の山を江の島に似  
 せ、わざと江の島をイメージするように仕組  
 んだのではないのでしょうか。浮世絵は当時の  
 いわゆる観光ポスターですので、こうした洒  
 落や仕掛けも構成要素のひとつなのです。

## 編集後記

「入館無料ですが全部ホンモノの浮世絵です！」と言いつつ早5ヶ月。リピーターの方が多いの  
 が当館の特徴の一つです。皆さまの学びと憩いの場として周知されてきたのかなと、嬉しく思  
 うこの頃です。展示替えごとに、どうぞお越しくくださいませ。

編集・発行：藤沢市藤澤浮世絵館

【住所】〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台2丁目2番2号ココテラス湘南7階

【電話】0466-33-0111 【FAX】0466-30-1817

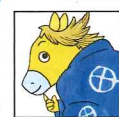
【URL】<http://www.fujisawa-ukiyoekan.net/>

【開館時間】10:00~19:00 (入館は18:30まで)

【休館日】月曜日(祝日、振替休日の場合は翌平日)、

年末年始(12月29日~1月3日)

※展示替え等で臨時休館する場合があります。



facebook：藤澤浮世絵館  
 公式アカウント

←このマークが目印です。

「いいね!」  
 お願いします。